

昭和三十三年三月十日(第二日)  
第一回市議会议定例会會議錄



昭和三十三年鎌山市議会才一回定例会會議録(才二日)

一 昭和三十三年三月十一日午前十時鎌山市議会才一回定例会才一日に館山市役所分館會議室に招集

一 出席議員(三十二名)

一番	石井	梨	二番	高橋	文治
三番	伊勢	仙之助	四番	小浜	光義
五番	後藤	ゆき	六番	秋山	万次
八番	金木	久一	九番	安西	政治
一〇番	田中	祿郎	一一番	脇田	順一
一二番	吉田	勇吉郎	一三番	小沢	太助
一四番	甲村	良五	一五番	小谷	無違
一六番	田村	喜兵衛	一七番	嶋貫	壮作
一八番	佐久間	為次郎	一九番	黒川	佐太郎
二〇番	山口	房治	二二番	小沢	恵太郎

二三番

福岡保徳

二四番

山本昇

二五番

松本藤太郎

二六番

可世木芳蔵

二七番

鈴木孝

二九番

遠山ヨネ子

三〇番

磯辺周雄

三一番

大野清五郎

三二番

望月暉作

三三番

田中忠蔵

三四番

飯田義男

三五番

嶋田繁

一、欠席議員(三名)

七番

鈴木市蔵

二二番

萩生田七郎

二八番

山口康

一、法令二〇二一条による出席説明員

市

長

田村利男

助

役

小出武男

収入役代理

真田森吉

総務課長

完戸貴

保險課長

唐沢貞太郎

商工水産課長

羽山房雄

送管書記長

渡辺 茨

建設課長

新井重助

農産統計課長

吉田耕一

秘書課長

山谷潤昶

福祉事務所長

長谷川治

厚生課長

神作啓次郎

戸籍課長

高木哲三

税務才一課長

山口 実

税務才二課長

伊藤幸太郎

診療所事務長

池田亮山

消防署長

安藤亀吉

教育委員会教育長

工藤和乎

警務局長 森田 義長

鶴沢 貫覚

監査委員

関 武夫

一本議会の事務局長書記および職員

事務局長

高梨 清一

書

記

太田 博雄

職

員

畑中 弘敬

同

山口 晴之

「昭和三十三年」館山市議会才一回定例会議事日程(才ニ号)

昭和三十三年三月丁日午前十時開議

議案才ニ〇号

昭和三十三年度館山市文出予算

日程才一

議案才二一号

昭和三十三年度館山市特別会計公益質屋文出予算

議案才二三号

昭和三十三年度館山市特別会計国民健康保険文入

文出予算

一本日の会議に付いた事件

議事日程に同じ

○議長(石井潔君)本日のお席議員数二十七名 これよりオ一回定例会  
オ二日の会議を開きます。

○議長(石井潔君)なおこの際申上げます。

昨日決定となりました会議日程についてお諮りいたします。

本日の会議日程に一般議案および予算の各款説明となっております  
が一般議案は昨日の会議で全部議了いたしましたので本日は予算  
の各款説明を全議の日程といたしたいと思います。御異議ござ  
いせんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井潔君)御異議なしと認めます。

よつて会議日程は変更されました。

議長(石井潔君) 本日の議事はお手許に配布の日程表の通りであります。

議長(石井潔君) しばらく休憩をいたします。

午前十時十五分休憩

午前十時三十五分開議

議長(石井潔君) 現在出席議員数三十一名、休憩前に引続いて会議を続けます。

議長(石井潔君) ついで議案第二十号ないし第二十三号昭和三十三年  
一般会計ならびに特別会計予算を一括議題とし、本日は各  
款ごとに内容の説明を行います。



なおこの際申上げます。内容説明に入ります前に誤謬訂正の箇所がございますのでそれを先にいたします。

○総務課長(兎戸史良君)オセページをお聞きねがいたいと思います。

オセページのオ一款市税のところの付記の欄でございますが上から数えまして四番目にあります数字を改正ねがいたいと思います。従来が五千七百十三万八千四百円の百分の十九となっておりますのさ五千八百六十八万三千七百円の百分の十八・五このように御訂正をおねがいたいと思います。

それから別にお配りしてございます予算説明書のオ一ページでございます。

予算額の説明という欄がありますがこれは下から数えまして三番目の欄でございます。これを従来は五千七百十三万八千四百円の百分の十九となっておりまして五千八百六十八万三千七百円の百分の十八・五と御訂正をおねがいたします。

その上に九五%と書いてある数字がございしますがこいを九七・五%強というふうには御訂正をおねがいしたいと思います。

以上でございます。

議案第二十号 昭和三十三年度<sup>（臨時）</sup>館山市文庫予算

議案第二十一号 昭和三十三年度特別会計公益質屋文庫予算

議案第二十二号 昭和三十三年度<sup>（臨時）</sup>館山市特別会計<sup>（臨時）</sup>市立図書館文庫予算

総務課長（兎戸貴君）三十三年度の館山市文庫予算を議一するに順序として文庫から御説明を申し上げます。

三十七ページをお開きねがいます。

オ一款の議会費でございしますが本年度七百七十五万八千四百十円を計上いたしました。この議会費の構成内容について申し上げますと人件費で百四十万二千円の増その他で十七万九千四百円増合計百三十二万四千四百円増ということになります。

この内の主なるものについて申し上げますがオ一目の議会議員

報酬でございますがこれは前年度より七十三万八千円増加  
になっておりますがこれは条例改正によりまして予算措  
置した結果でございます。

つぎは才三目の旅費でございますが旅費で二十一万四千円計  
上いたりました。このうち費用弁償といたしまして十八万二千  
円計上してございますが普通費用弁償として十二万二千円  
それから三十三年度は市庁舎建設の視察費用弁償として  
このなかえ七万円を計上いたりました。

つぎは三十八ページ才五目の需用費のうち二十五節の備品費  
でございますがこれは議場用の備品等の関係で二万円を計  
上いたりました。内容につきましてもは議場用  
の椅子十脚分二万三千円 それからカサ立四個で三千二百円そ  
の他三千八百円というものを見込んだ次でございます。

三十九ページ才六目の交際費でございますがこれは前年度より

も五万円増額となっております。つぎはオニ目の調査費でございすが旅費といたしまして三十五万二千円計上いたしました。これは議員の議会事務調査費用償として一人年一万円、三十五人分三十五万円と証人等の費用弁償として二ヶ月を計上いたしましたものでございます。

議会費の概要につきまゝでは以上の通りでございますがこのうち議会費のオニ項の職員給等の人件費につきまゝでは各款に関係がございしますので秘書課長から一括申し上げますのでこの人件費につきまゝでは説明を省略させていただきます。  
以上。

○秘書課長(山谷昶君)昭和三十三年度の人件費につきまゝ一括御説明申し上げます。

人件費はオニ款の議会費以下市役所費、消防費、土木費、教育費、社会および労働施設費、保健衛生費、産業経費費

統計調査費、送挙費、諸支出金、なお特別会計につきまゝ  
ては公益債屋、保険事業勘定、保険直診勘定、こいらにわた  
ておりますので御審議の便宜上表びまゝとめまゝてお配りいた  
します。

ただいま配布—まゝた表の最初の一枚目と二枚目、この表は昭  
和三十二年、釧路市職員定数および予算計上人員調べ  
でございます。

そのつぎの欄横に読上げますと、予算計上更員、その他の職員  
定数、予算計上人員、現在数、定数に対する現在数の増減、予  
算計上人員に対する現在数の増減、こゝういふふうになっておりま  
すが、定数は定数条例で定められている数でございます。つぎ  
の予算計上人員、市長事務部局の職員の欄で申しますと、定  
数より予算計上人員が一名多いのでございます。これは普通  
なら予算より定数計上人員が多いということはあり得ないこ

となんですが現在市の方には休職者が三名ありますのでこの三名の休職者が一応定数外というふうになりますのでそれを含んでおりますために一名増加いたしておるんでございます。その休職者を除きますと定数より二名減になってるのでございます。

現在数は二百十二名、これには休職者は含んでおりません。つぎの橋の定数に対する現在数の増減で五名少なくなっております。そのつぎの予算計上人員に対する現在数の増減で六名少なくなっております。この内訳は休職者三名、新規採用として二名見込んでおります。一名は土木技師を見込んでおります。それに質屋の職員一名、このほか保育園の保母が一名退職したためにその欠員も計上になっております。この保母の報酬につきましてもいまのところ船形幼稚園開設に伴いまして、那古純真保育園の児童数が少なくなった場合に補充しなくてもいいんじゃないかと思われますが、その保母が予算編成後に退

職したためにここに一名減の数が出てきたのでございます。  
つぎはその表によつておわかりのことと思いますが二枚目の下か  
ら五行目の消防署の職員この定数は昨日の定数条例の改正  
以前にこの表を作りまゐつたので定数は三十七名となつておりま  
す。昨日定数改正をいたしまゐつたのでこの定数は四十一名で予  
算計上人員の増減はないことになります。現在数との関係は  
五名の減になっております。これは現在一名欠員になつており  
ますのでその一名と新採用の四名を加えて五名となるので  
ございます。

そのつぎのページについて御説明申し上げます。これは人件費  
の予算額をまとめたものでございます。

オ一欄の議会員の報酬は議員三十五名の分でございます。  
つぎの市役所員の報酬は監査委員二名の報酬十萬八千円と  
公平委員三名の報酬、固定資産委員の報酬、市の連絡員

の報酬四十万これらを合算したものの五十四万百円でございます。  
つぎの消防員の報酬は消防委員十二名の報酬と昨日条例改  
正によりまして増額されました団員の五百六十一人の報酬五十  
四万四千六百円これらを合算したものでございます。

教育費の人件費につきましては教育委員会の方で予算編成と  
いたします関係上省略いたします。

社会および労働施設員の三十六万二千円は民生委員八十四名の  
報酬十五万四千円と児童委員七十四名の報酬十四万八千円保  
育園の医師でございます。この報酬四名分嘱託医師の  
一名分それと合算した三十六万二千円でございます。

つぎの産業経済員の報酬の内容は農業委員二十五名の  
九十一万二千円 農業協力員百五十名の四十一万一千六百円、  
畜産奨励委員の委員二十二名の二万二千円を計上いたしました。  
つぎの統計調査員には農林調査委員百二十八名の報酬三十五



万六千円計上いたりました。

送挙員の報酬につきまゝでは、送挙管理委員会の委員三名の報酬二万八千二百円となお三十三年度におきまゝでは南部海産物業調整委員会委員の選挙、知事選挙、市長選挙がありますので、この投票開票管理者および立会人の報酬合計五万三千六百六十円を合算して計上いたりました。

つぎの諸支出金の報酬につきまゝでは、固定資産評価補助員二百人分を計上いたりました。

つぎの職員給これは計上人員と予算額をてん列記いたしました。なおこの職員給は現在一般職員につきまゝでは本俸の平均は、館山市におきまゝでは一万三千四百円となつております。予算に計上いたりましたのは昇給見込等を含みますので、約一万四千円になつております。

つぎの扶養手当の補給これは甲と乙の二つに分かれるのでござ

います。甲は扶養家族のうちの配偶者として子供の中の一人これが各六百円でございます。なお二人目三人目からは子供は四百円でございまして甲は三百十二人、乙に該当するものは二百六十七人ありますのでこの予算額全部の合計三百五十五万五千九百円を計上いたしました。

暫定手当は従来勤務地手当が今年度三十二年度より暫定手当に変わったものでございます。

超過勤務手当は館山市といたしましては給与の三%を計上いたしておるものでございます。

そのうち選挙費につきましては三%のほかに選挙がありますので先ほど申し上げました三つの選挙がありますのでこの超勤手当は特別に計上しております。その金額は十七万一千七百八十円計上いたしました。

期末手当これは六月の五割十二月の十三割を計上いたしました。

つぎの欄の勤務手当 これは六月に二割五分十二月に五割 期末手  
当 勤勉手当 いずれも従前通り計上いたりました。

つぎの恩給共済組合負担金 この合計は千五百四万五千八百円計  
上いたったのでございますがこのなかには昭和三十九年に金館山市が  
恩給組合に加入した際の引継資金それが百七十六万七千三百  
円を含んでおります。この引継資金は昭和三十九年の四月か  
ら五年払いで恩給組合へ納付することになっておりますが、その  
総額は市員担当六分の五 職員が六分の一 退職料扶助料の引継  
資金は全額市員担当で納付してあるものでございます。この引継  
資金も本年度でしめて終ることになっております。

市役所員のその他の欄では宿日直手当を計上いたりました。  
消防費のその他の欄では夜勤手当、出勤手当、技術手当等  
を計上いたりました。社会および労働施設費、保健衛生費  
には特殊勤務手当を計上いたりました。なお諸支出金の三十四万八千

八百月の内容は税務三課の職員、税務手当、差押<sup>え</sup>手当等を含んでおります。以上で一般会計の人件費の総令計は一億四百四十万七千九百八十円でございまして、総予算に対する%は四〇%でございます。三十一年度は四十二%の人件費、本年度は昨年ベース改訂がありまして人件費が増額いたつたので、また四十%まで上がったのでございます。

この人件費の見方は各市まちまちに計上しておりますので、よその市との比較はちょっと困難と思われれます。館山市としましては従来これらの科目を人件費として取扱つております関係上、本年もこれらも人件費として総予算に対する%を忠つた次第でございます。

なお特別会計につきましては報酬の欄で保険事業勘定で六万一千円計上いたしておりますが、これは国保運営協議会委員十四名分でございます。ほかは職員に関するもののみ

でございます。つぎのページを御覧になります。

この表は昭和三十三年度 昭和三十三年度当初予算計上人件費比較表 予算計上人件費の比較表でございます。

三角印は減報酬の欄にあります。この総額はベース改訂また消防費教育費におきましては昨日条例改正に伴う増加分でございます。

市役所費の減額は連絡員の報酬が町内会または部落会に職員として回った分がありますので本年は十万円の減となっております。

つぎの欄の職員給これは議会費におきまして十二万四千二百円の増になっておりますがこれは給与改訂とおお給仕一人分ふえております関係上増になります。市役所費におきまして給与改訂昇給分、なお技師二人新規採用の分でございます。

消防費の職員給は昨日条例改正いたしまして四人の消防手の増とベース改訂による増でございます。

土木費の一名の減は昨年一名死亡いたしましてしたのでそれに伴って職員給 扶養手当 暫定手当その他の手当が減額になったものでございます。

教育費は省きまして八款の社会および労働施設費以下はベース改訂昇給等が主なるもので増加分でございます。

職員給の合計五百八十三千八百円の増の主なるものは先ほど申し上げました七人の増員分八十二万九千二百円と昨年の給与改訂によりて約二百七十七万九千円増加しております。この人員増と給与改訂に伴うものとを五百八十三千八百円より差引きますと百四十七万六千円これが自然増になったのでございます。昇給等の増でございます。これも前年度高令者は退職勧奨によりまして十名退職したためにこのくらいの増で済んだのでございま

—てこれがし—退職—なかつた場合には年間三百五十五万四千月ふえることになるのでございます。

扶養手当は総額で十三万八千月増加—ておりますがこれは近年めずり—く職員の分晩婚姻が増加—てあります。属係上急激にふえるのでございます。

暫定手当これは昨年の給与改訂で勤務地手当が暫定手当に改正されたのでございます。

従前の勤務地手当においては旧村地内は無手当になっておりまして出張所、保育園等に支給されておつたのであります。が暫定手当に改正されてからは昨年の十月から二%本年の四月から三%支給されることになりました。この分の予算増加約十四万五千月であります。残りの三十一万七千月は人員増給と改訂昇給等に伴う増加額でございます。

超過勤務はつぎまゝでは先ほど申し上げましたように三名計  
エーたのでございまして自然に昇給等ありまゝたために超過  
手当の増額になつたのであります。

なお期末手当につきましては昨年の十二月分期末手当は百分の  
十五増加しております関係上相当額増加したのでございます。  
勤勉手当と思給共済組合負担金こけらも給与改訂に伴い  
増加したものでございます。

人間するところによりますと思給共済組合の負担金は四月  
から相当額負担金が安くなるということを通じてあります。  
まだはつきりした通知がありませんので予算編成には間に  
合いませんでしたので取あえず従来の負担已分により計上い  
たゝまゝです。以上簡単でございしますが人件費総括御説明申し  
上げました。

○総務課長(兎戸貴君) つぎは四上ペーどさお聞きないます。



オニ款の市役所費でございます。

市役所費は本年度五千四百十九万三千八百四十円を計上いた  
—ました。この市役所費の構成内容について申し上げますと  
人件費で二百五十九万三千三百十円、投資的経費で百二十三万  
円、その他で三十四万三千九百二十円増ということで差引き百  
七十万六千二百三十円の増ということになります。

つぎは四十二ページのオニ目の旅費について申し上げます。

旅費といた—まして百二十万を計上いた—ましたがこれは  
一ヶ月平均十万円として十二ヶ月分を計上—たものでございます。  
オニ目の需用費の十二節の消耗品費として五十万円を計上  
—てございます。この内容につきまして—は説明書に詳細記  
載—てございますので省略いた—ります。

十二節の燃料費といた—まして七十八万八百八十円計上いた—ま  
—すがこれは乗用者の燃料費四十九万二百万、原動機付の自

動車の燃料が十萬二千六百十円 庁用燃料代が十八萬四千円  
でございます。

つぎは四十三ページの十四節 印刷製本費二十四萬五千円計上  
してございます。これは印刷製本費といつて予算および決算の印刷代が七萬五千円 それから普通印刷費が月  
一萬円として年十二萬円 市の創規集追録代が年五萬円  
を見込んだものでございます。十六節の通信運搬費とい  
つて五十四萬二千六百六十円計上いたつてまいりますが、この基礎  
料金等につきましては説明書にございますので省略いたします。  
十七節の借料および損料でございますが、四十二萬九千円のうち  
土地借上料が一萬二千三百円であり、これは市役所の  
敷地は法住寺と北条病院から借りておりますので、この年間  
の地代を計上したものでございます。

その他ラジオの聴取料が二千六百円 自動車の借上料として

三万円と見込んで計上したものでございます。二十三箇節の修繕料として五十万二千円を計上したのでございますがこれは主として自動車等の修繕料でございますが詳細は説明書にございますので省略いたします。つぎは二十五箇節の備品費でございますが二十五万二千円を計上いたしました。これは法規圖書自転車等の購入でございます。とくにこのなかで計算機を一台購入いたしたいと思いまゝて四万円を計上して合計二十五万三千円を計上したのでございます。

つぎは四十四ページオ五目の交際費でございます。

これは三十二年度と同額で七十万円を計上いたしました。オ二項の監査費のうちオ四箇節の旅費として四万七千三百円を計上いたしました。これは監査委員の費用弁償と書記の普通旅費でございます。全国都市監査委員協議会に出席する分として八千八百二十円、関東都市監査委員協議会に出席

席する分といたしまして三万二千二百十円、それから県市監査委員の協議会にも席する分として一万六千二百八十円以上を見込んでございます。

それから四千五百ページのオ三項の公平委員費二万五千八百円とオ四項の固定資産評価審査委員会費としてこの三万七千五百九十円は内容が簡単でございますので説明を省略いたします。

つぎは四千六百ページのオ五項の土張所費でございますがこのうち三丁節の借料および損料といたしまして八千八百円を計上いたしてございます。

このうち土張所の敷地料は四千八百円でございますが神戸と西岬の両土張所が土地を借りておりますので神戸の分が二千八百五十九円、西岬の土張所の分が一千九百二十円、そのほかラジオ聴取料といたしまして五土張所分四千円を計

上いたるものでございます。

つゞきは四十七ページ六項の市広報費でございます。市広報の印刷製本費として三十三万二千八百円を計上してございます。これは従来二ページ建てでありました広報を三十三年度から交互に二ページ建四ページ建というふうに改めたいと考えますがこの詳細な算定基準につきましては説明書に記載がございますので省略いたします。

○戸籍課長(高木哲三君)七項の戸籍等事務費について御説明申し上げます。

本年は十二万七千二百二十円の増になっておりますがこれは戸籍の改正事務が四月一日から実施されますので十二万七千二百二十円の増となっております。この戸籍の改正事務は三十三年から三年間のうちに完了することになっております。

○総務課長(兎戸貴君)つゞきは八項の学務費でございますが九万

千五百円計上してございます。

内容は簡単でございますので説明を省略いたします。

つぎは四十八ページの諸費のうち三十二節に負担金補助および交付金として二万円を計上してございます。これは職員が自治講習所に参加しまして二十日間にわたり長期の講習を受ける予定で一人分四万円として五人分二十万円を計上いたしましたものでございます。

オ二目の衛生管理員のうちエ節の消耗品費といたしまして二十六万円を計上いたしてございますがこれは勤務中における更員の応急手当品脱脂綿その他の医療に用する消耗品でございます。

四十九ページのオ三目の諸費のうちオ一節報酬といたしまして四十万円を計上いたしました。これは現在市に四十八人の連絡員がございまして市の連絡業務をとっておりますのでございます。

月平均三万三千三百四十円になりますのでこの半年分を計上いたしたものでございます。オ十三節の交際費は三十二年度と同額の四十万円を計上いたしました。十九節の手数料として三万七千四百円を計上してございますのは自動車の検査手数料ニ台分が一千四百円それから最近便所の汲取が非常に困難になりましてこれを市内の業者にさせておりますので本館と分館の分が一ヶ月三千円として年間三万六千円を計上いたしたものでございます。三十二節の委託料といたしまして七千円を計上いたしました。これは市内の連絡員のほかに町内会もしくは区長等がございまして地で市の事務に協力をしてくれる地域に対する委託金でございます。いまして現在百町内会がございしますが月平均約四万五千円支出しておりますのでこの分が五万五千円としてそれから地方公務員法の四十二条によりまして地方公共団体は職員の厚生施設をしなければいけないということがございしますがこの法律に基きまして職員

組合に対する福利厚生業務を委託することになりましてこの  
分を十五万円計上いたしましたものでございます。

つぎは五十一ページの消防費について申し上げます。

消防費は本年度総額一千九百六十六万五千円計上してござい  
ます。この構成内容につきましては人件費で百六十三万三千三  
百三十円の増、投資的経費で二十六万六千二百五十円の増、その  
他で三十八万五千五百円の増、合計二百三十八万八千八十五円の増という  
こととなります。

オ一節の報酬でございしますがこれは昨日条例によりまして  
可決いたしましてたので消防委員に對しまして一人三千円十  
二人分年額を計上いたしましたものでございます。十二節の消耗品  
費として六千円を計上してございしますがこれはも初試当日の  
諸経費でございます。

オ二項の消防署費につきましては後ほど消防署長の方から



申上げることといたーまーて

五十五ページのオ三項の消防団員について申上げること  
にいたります。オ一節の報酬として五千四百六十百円  
を計上いたーまーたがこれは団長以下消防団員の年間の  
報酬でございます。三十三年度の当初予算に比較いた  
ーまーて十六万六千百円の増ということになります。

オ二目の旅費として六十万七千円を計上いたーてござい  
ます。これは主として消防団条例によります災害と動関係の費  
用弁償警戒関係の費用弁償その他の主としてと動経費  
でございます。

五十六ページオ一節の消耗品として三万八千円計上いたーまーたが  
これは大体消防団のポンプ等を維持するための経費でござい  
まーて消耗器材費といたーまーて一十九千円ポンプ車両の  
用具費として六千円その他の必要な経費でございます。十二

節の燃料費は三十三万四千円でございます。これは自動車  
三輪車手挽マスコットそれから夜警の薪炭、こういうことに  
なっております。自動車と三輪車の燃料代として十八万二千  
四百円、手挽マスコット燃料代として二万六千六百円、夜警の  
薪炭代として二万五千円を計上いたしましたものでございます。  
丁三節の食糧費として八万八千円を計上してございます。  
これは演習賄料と会議その他の賄料でございます。内訳と  
申しますと防火週間の賄料が二万八千円、運動賄料が三万六千円、  
退団者の慰労会の賄料が二万五千円、その他外來者の接待賄  
料でございます。丁三節の委託料といたしまして十九万八千円  
を計上いたしました。これは市内に自警消防団というのがご  
ざいます。これは合併後市内の消防団を統合改変いたしま  
した際に、その地域で自警消防として残った地域に対する委  
託料でございます。現在手挽ポンプを持っておるところは三

ございましてこれが一年間一万円で三万円可搬動力ポンプを持っておる自警団が四ヶ所ございまして一台七千円で年間二万八千円 それから従来の搬用ポンプを持っておるところが二十ハク所ございまして一台五千円で年間十萬円を計上いたしたものでございます。

五十七ページの二十三節修繕料として四十二万九千円を計上してございますがこれは主として自動車および野水地車庫等の修繕料でございますが内容につきましては説明書にございましてので省畧させていただきます。

二十四節の工事請負費として百八十七万円計上してございます。この内容につきまして説明書にございましてので省畧させていただきます。二十五節の備品費は二百五十二万四千円でございまして。このうち大きなものといましては自動車ポンプの購入代八十万円三輪ポンプの購入代百三十二万円が見込んで

二 貨 物 課  
でございます。現在船形の分団と二分団は手挽ポンプを持って  
おりますがこれがいずれも十五年以上経過するものでござ  
いましてきわめて老朽でほとんど不能であるという状態  
のものでございまして二分団で本年度自動車ポンプの中古  
品を買いたいというので八十万円、それから一分団では三輪  
自動車ポンプの新品を買いたいというので百三十三万円計  
上いたものでございます。以上で消防費を終ります。  
消防署長(安藤竜吉君) 五十三ページの消防署費のうち需用  
費について御説明申し上げます。

昨年に比べまして二十万八千九百三十円の増となっております  
すがこの主なるものは消防署に緊急連絡者が一名ふえた  
こととガソリン消費税がかかりまして燃料が一割強値上  
りしたものと、新炭その他の値上がりしたものが大部分  
を占めております。

オ九節の賃金 臨時消防職員賃金は新規採用になります四名が一ヶ月間は見習期間としておきますのでその間の日当を計算したものでございます。

十二節の燃料費は以上申し上げた通り。五十四ページへ参ります。最初は無線局定期検査手数料、これは移動局本局の無線の年一回の定期検査でございますのでこの検査手数料でございます。

二十五節の備品費 このうちの被服費の九十万円でございすがこれは職員の被服等賃与に関する条例に基きまして昭和三十三年度に支給しなければならぬ被服その他で総額九十万円となっております。その他は大体昨年と同額もしくは減額されておるのでございます。以上簡単であります。御説明いたします。(「休憩」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君) しばらく休憩いたします。

午前十一時三十五分休憩

午前十一時三十六分開議

○議長(石井潔君)休憩前に引続いて会議を開きます。

○議長(石井潔君)ただいましばらく休憩ということにいたし、  
た  
がこのまゝ午後一時まで休憩に入りたいと思います。

午前十一時三十七分休憩

午後一時 十分開議

○議長(石井潔君)午後の出席議員数二十五名これより休憩前に  
引続いて会議を開きます。

○議長(石井潔君)なお甲上げます。中央土地改良区設立認可申請  
の会議のため市長ならびに沢恵太郎議員、高橋議員、小

決議員が暫時出席をいたしましてたので御報告申し上げます。  
なお昨日の会議で三十五番君の質問に對し答并保留となつて  
ありまして保険の地域ごと受診率および收納率の印刷  
物をただいま配布いたさせていただきます。

(書記 配布)

○七番(嶋貫中作君)議事に先立ちましておねがいしておきたいと  
思います。この予算の説明は簡単とは申しませんがもう  
少一要領よくゆっくりと御説明をねがいます。それでない  
とどうもねえ氣を催しまして困りますんでおねがいたいま  
す。

○議長(石井潔君)さよう取計らうようにいたします。

各所管課長には簡明にかも重実的にゆっくり御説明をおね  
がいたします。

ただいまの保険の印刷物について御説明申上げることはい

たいますかいかいいたいますよう。(説明簡単にねがいたいと思  
いますと呼ぶ者あり)

○保険課長(唐沢貞太郎君)ただいま御配布申上げました地已で  
との受診率と保険料の納入歩合のことにつきまして簡単に  
に御説明申上げます。

受診率の調査は三十一年度のものを全額ここに書いたものでご  
ざいます。なお三十二年度のものにつきましてはまだ全部の  
トータルがでなかった関係上ここに三十一年度のものをとった  
わけでございます。なお三十二年度の保険料の収納率につき  
まゝでは五期分までがすでに納期が到来しております  
ので納期の到来したものについての収納率を書いたわけで  
ございます。以上。

○三五番(嶋田繁君)ちやうどいとおつ質問したいと思いますが船形地  
区の受診率が非常に他と較べて多いんですがこれについて



なんか特殊な事情でもありません。

保険課長(唐沢貞太郎君)船形地区のものにつきまゝではすでに運営委員会でも一応問題になりまゝたのでその調査を現在いたしております。

それは船形地区の被保険者を全部年令階層別の病類に分けまゝてその結果によらないとはっきりしたことはわからなないのでございますがおそらく一失あたりの単価が低いためには早期に受診するのではないかと簡単に申すわけないんですが一応現在はその程度しかわかっておりません。

〇三五番(嶋田繁君)ほかの地区から比べると格段になっておるんですがまさか船形地区だけのお医者さんが高い薬価をとっているわけでもありません。船形地区だけ病人がとくに多いというわけでもありませんかと思ふわけでもあります。これについては早急に御調査下さいまして打つ手があつたら

打つていただきたい、こういうふうに要望いたします。

議長(石井潔君) それではこれより日程に入ります。

建設課長(新井重助君) 午前に引続いまして各款御説明いたします。

オ四款土木費について御説明申し上げます。

オ四款土木費におきまして本年度は二千七百四十三万三千三百円を計上いたしました。これは道路橋梁、治水、堤防、河川港湾、用排水路、水道その他、街灯費、調査費等に充てる費用でございます。

オ目の維持修繕費、六百八十八万三千四百円おねがいすることになりました。市道の現況は道路の延長が三百九十七メートルございましてそのうち橋梁数が百二十になるものでございます。うち永久橋、コンクリートその他石材の橋でございますが三十六橋、木造が八十四橋でございます。この八十四橋の木造は大半腐りかけてなおなければならぬんですが三十年度三十一年度

三十二年度で約三十橋ほど修理いたりました。今年度にお  
きましてもなお修理を加える必要がございます。十橋ほど計画  
いたっております。これが補修に當つて私ども相当努力を  
重ねて参つたのであります。最近の情勢は三輪自動車が発  
達いたしまして農村に通ずる道路に非常に硬い道路も利用  
されるという結果になりましたので路面の痛むのが非常に  
多くなったという關係で本年度は橋梁架替え道路改修に大  
いに意を用いまして昨年度よりも五百四十一万一千九百二十円の  
増加となっております。各々説明申し上げますと工事請負費  
におきまして予定いたしました橋梁数が菱名の養老橋でござ  
います。北条の富士見橋これは三十二年度において上部を修  
理いたしまして橋脚に虫が食ひまして危険な状態になつて  
おりますので橋脚の根固めをいたします。西長田の前田  
橋の橋台が浮上りまして危険となっておりますので橋台の

根固めをいたします。それから無名橋がございましてこれは橋台と上部が腐っておりましてこれを取換えます。南條の録田橋これは桁が腐っておりますので取換えます。宮城の下水道路これも上部が腐っておりますので取換えたいと思っております。大神宮の宮前橋これも桁を取換えます。そのほか三三橋も見えておりましてあとは道路の側溝の修理その他に充てることになっております。つぎに原材料費百二十万は三十三年度に引続きまして多くの需用がございまして本年度はとくに三千五百立方程度かけましてあとは修繕用のセメント木材等の購入に充てております。

つぎに二目の新設改築費でございますがこれは百四十六万四千円このうち六十八万四千円は道路改修費に充てております。この道路改修は川名地先に消防車の通れないごく狭い道路がありましてこれを長さ五十メートル幅四メートル程度に改修し

たいと思っております。そのほか三十二年度に引続きまして  
竜岡地先四百メートルを幅五メートルに改修するものでございます。  
この二つの改修予算額といたしまして各々節に分配いたして計上  
いたしまして。三十二年度の負担金補助および交付金でございます  
すがセシハ分計上いたしておりますがこれは県道改修工事でございます  
ます。この改修工事の予定個所は西長田と見物の二ヶ所を予定  
してあるのでございますがこの地元負担金をここに計上いたした  
次第でございます。

二項の治水提防費は存目程度でございます。ので説明省略い  
たします。

三項の河川老朽費、一目の維持修繕費に四十一万四千二百円を計上  
いたしてございますが、うち工事費は三十九万円は、館山、北条、那古の  
三つの残橋の修繕費その他と、め川、境川等のいゝ河川の護  
岸の工事を見込んでございます。オ二目の新築改築費は、館山

港修築工事費 船形港修築工事費 富崎港維持工事費負担  
金でございます。

才四目の用恵水路費 一目の維費修繕費 二目の新設改築費は館  
山および六軒町の恵水路の整備に充てる予定でございます。

才五款の水路費を御説明申し上げます。

水道費二百三十九万九千円 合計いたしました。昨年に比しま  
て百十三万九千七百十五円の増加となっております。これは現在  
水道の利用状況は利用者が百三十六戸でございます。とくに自衛  
隊の増員によりまして水道の利用が非常に多くなりこれに伴  
いまして使用料も増加いたしまして年間百八十万から約二百万  
前後となっております。こんご自衛隊が千名程度ございまして  
これが五十名増加いたしました予定になっておると、うございまして  
現在の施設では水が足りないという状況でございます。それでによ  
りまして今年度はダム、の補修をいたしまして現在貯水の六万二

千トこを七千トに増加いたしまして六万九千トに貯水いたしまして一般の水道利用に充てたいと考えております。そのためにも節工事請負費において五十三万円を見込んであります。そのほかろ過用の砂でございますが従来からずっと引続いて使っておりますので相当疲弊いたしておりますので今回百立方程度購入いたしたく原材料費において二十五万円を計上いたしました。

才六項の街灯費四十三万七千円は市内街灯照明灯を含めまして二百二十七灯でございます。そのほか本年度汐入橋架設に当りましてあそこえ二丁の電灯八個つけますのでその増加分を見込みましてここに計上いたした次でございします。

才七項の調査費二万八千六百五十円は土木全般にわたりますところの調査と測量および各種の国県の郭団体に対する交付金および負担金でございします。

八項の営造費二万二千四百六十円計上いたしました。これは市の

庁舎運造物その他の修理に要しますところの職工、大工の賃金とこれに必要と思われれる材料費その他でございます。

オ五款の都市計画について御説明申し上げます。本年度は八百十九万三千七百円を計上いたしました。一日の二項重要幹線街路事業は三十七年より継続事業として施行しております。海岸道路でございます。本年は汐入川河口の橋が三十二年度ででき上がるので、それから四百六メートル改修いたしました。館山栈橋に達する道路に接続いたします。これに要する費用が現在検討中でございます。ですがこれが国庫補助の關係がございしますので目下建設省の方へ基本額の交渉中でございます。まだ基本額が決定いたしませんで取あえず昨年の予算を踏襲いたしましてここに六百万円計上いたしました。需用費は工事に伴う五％計上いたしました。オニ項の道路橋梁改良事業費これは五十万二百円計上いたしております。これは市単独の都市計画事業としまして館山駅



前広場より日東交通前を通りまして三軒町において二級  
国道に接続いたす線と三百三十四メートル幅六メートルに拡張  
して一応駅前を整備を図りたいと考えております。

オ三項の都市水利整備事業費九十万二月月は市単独事業  
といたしまして、鎌山の昭和電工周辺の排水路が御承知の通り  
非常に悪いのでございまして、仲町上町から流れてくる汚水はあ  
の辺一帯にわたります。まして昭和電工の悪水とござります。まして悪臭  
を放っておりますので、これも地元から強い要求がございまして、本  
年度において百四十メートルの修理をいたしまして、この悪水の交  
流をスムーズにしようと思うものでございます。

つぎはオ四項の公園費でございますが、公園費といたしましてオ  
一目の公園整備費として五十一万二月月、これは三十二年度に開設  
いたしまして、北条海岸の道路ができ上がりまして、この道路  
のでき上がりまして、関係上外來客と市民が憩いの場所と

て利用することが目立って参りました。が、海浜一帯に雑草が茂りましてゴミがたくさんあり汚ないのでこのたび市単独といまして遊歩道路を設け整備をしたいと考えております。

オ二目の公園管理費十六万一千八百円は城山那古船形等の公園にございます。施設物の補修維持のための経費を計上いたしまして。

オ五項の調査費十三万五百円は都市計画事業全般にわたります。調査のため必要であると思われる経費をここに計上いたしまして。

十四節の印刷製本費分円、これは市内の二分の一の四面を調整いたしまして計上いたした次第でございます。

オ六款失業対策事業費三百九十五万四千八百五十円計上いたしております。これは昨年に比しまして九十五万三千八百五十円

の増加となっております。本市におきます失業者は約八十名を数えておりますので、これらの人々に職を与えまゝして生活の安定を図るために毎日三十五人従事するように仕事が生計画されております。その計画路線は船形の原線の船形地先枹塚から八束へ通ずる道路でございますが、三百八十五メートルを舗装いたします宮城におきまして二百六十一メートル幅四メートルに拡張いたします。汐見におきまして四百三十四メートルを幅四メートルに拡張いたします。船形の四百十六メートルの道路は三十三年度につづいて継続事業でございます。この請願書が出ました九重の学校のなかを通つてある道路が児童に危いといふことで、これをつけ替へるためにつくる道路でございます。学校の西側を通りまして二百四十二メートル幅五メートルに改修いたします。

安藤、宝貝へ通ずる道路百三十四メートルを三メートル六十に拡げる

二 第一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百  
予定でございます。以上六路線の改修を予定してございませう。各節にわたります。これはこれに要する費用を分配してありますので、節の説明は省略させていただきます。

二目の需用費はこれに伴う事務費八万二千二百円を計上しておきました。以上でございます。

○教委庶務課長(鶴沢貫覚君)オセ教教育費について御説明申し上げます。

本年度におきまして五千七百五十一万七千四百五十九円で前年比一、三、一、七、五、四、二、千、百、円、の減となっております。

最初の教育関係の人員費について申し上げますと三十三年度の人員費は二千六百十八万五千円、三十二年度の人員費二千三百三十万八千円、対しまして二百九十七万六千円の増となっております。この増となっております原因は昇給等により、自然増額の分と高等学校が今年度一学級ふえ、また関係で職員二名

増員になっております。一かも昨日議題になりまして公民館の報酬等がこの増の原因となっております。各目にわたります。報酬のうちで教育委員四人、学校関係の校医九十四人、公民館職員三十二人、青年学級講師三人、合計額五十一万二百万。これが報酬の内訳でございます。職員は事務局職員のほか合計いたしまして百四十人となっております。昨年は百二名でございます。まして二名の増となっておりますが、これは先ほど申しました高等学校の職員二名の分でございます。そのほかに異動といった。まして昨年途中幼稚園の職員に異動がありまして三名退職。まして二名補充いたしましてたので一名幼稚園の職員は減になつております。

青年学級が昨年途中におきまして西岬の青年学級を常設いたしましてたのでこの職員が一名増になりまして差引き二名の増員になつておるわけでございます。ページをめぐっていただきま

て七十六ペーと需用費の百四十三万五百万に對して二十八万三千六百万の増となつておりますがこれは九節の賃金で八万五千五百万を計上いたしました。これは委員会には建築技師として高等学校に身分のあります池田技師を囑託してあります。がなほ一人で三十枚の学校建築の管理等を受持つてあります。関係で手不足でございますのでこの補助といたしまして大工の経験のあるものを一名増員したいというものでこの賃金に計上いたしました。一日五百万三百六十日分として十八万五千九百万を計上いたしましたわけでございます。その他の需用費の各節については前年と大差ございませんので省略いたします。六目の学校教育指導費におきまして二十四万九千円の増額となつております。これは本年度の施策といたしまして指導陣の強化を図ろうというものでございます。五節の職員手当におきまして十八万を計上いたしました。これは指導主事

二月平均三千円七角二千円 強化指導員を三人囑託いたしまして年額二万円で三万円 合計十萬二千円を計上いたしまして指導の強化を図ろうというものでございます。ページをおめくりねがいます。十四節の印刷製本費におきまして二十万円を計上いたしました。これは三十三年度におきましても市においてはじめて小学校の upper 生の学力テストを行つたのでございすが大変効果的でありましたのでこれを今年もつづけて行いたいというものでございます。テストする科目は国語、数学、社会、理科の四科目でございます。これを小学校におきましては五年生、中学校におきましては二年、三年を年一回実施したいというものでございます。二十二節の委託料で二万円を計上いたしました。長期研究委託料として五万円、これは船形小学校におきまして特殊児童の教育をやっておりますのでこれに対する委託料でございます。

健康教育委託料として五千万円これは全国優良学校として表彰を受けております。富崎小学校に対する委託料でございます。原材料費におきまして五千万円を計上いたしましてこれは最近やかましくいわれております理科教育の更だ講習といった一まゝて教育の指導に当るための材料費でございます。それから工作の講習会の材料費として一千万円合計五千万円を計上いたしまして。

二項の財産管理は土地借上料として五千万円保険料といった一まゝて火災保険料が九十五万円計上いたしましてこれは説明書に各学校詳しく記載してございますので説明をさせていただきます。小学校費におきまして三百五十六万三千三百円の減となっております。ありますがこれは主に営繕費の減でございます。

需用費におきましてはP、T、A、からの負担を減少しようという目的のもとに約二割程度の増額をしてございます。十二節



の消耗品におきまして百万八百万を計上いたしましてたがこれは生徒児童九千四百人学級といまして二百十学級ございますのでその分の消耗品でございます。

申一落一よりたが九節の賃金で三十三万円を計上いたしましてたがこれは給食実施校が三校でございます。館山の学校、富崎の学校、豊春の学校の三校が実施しておりましてこれに一名づつの給食炊事婦を配置してございますが一名では到底手がたりませんので各学校に一名づつ増員いたしまして六名といまして二十五節の備品費におきまして三百八十八万九千円を計上してございますがこれも説明書に記載してございますので説明を略させていただきます。二十九節で扶助費三十三万三千二百円を計上いたしましてたがこれは準要保護児童に対する給食と教科書購入代の扶助費でございます。これは三十三年度と大体同じ額が補助されますので昨年と同程度計上いたしましてたが該当人員といましては準要

保護児童の給食の方が九十四人分 教科書購入費の方は百八人分  
と見込みました。

五月の営繕費におきまして七百十四万五千円を計上いたしました。  
工事請負費におきまして六百三十万円でございますがその内訳は  
館山小学校の校舎修繕工事費として十万円これはオニ棟の分の  
修繕工事費でございます。館山小学校の給食室増築工事費  
十二万円 これは現在の給食室が狭いので六坪拡張しようという  
ものでございます。北条小学校の修繕工事費として十五万円  
これは南校舎の修繕工事費でございますが本年屋根を  
ふさ替えまして雨もりはなくなりました。ただ下見とみ窓の敷  
居とかがまた腐巧っておりますのでその分の修繕工事費で  
ございます。船形小学校校舎改築工事費として四百六  
十万円を計上いたしました。これは南校舎の分でございまして  
これを改築いたします。六教室百五十坪分でございます。昇

降口が十八坪合計百六十八坪となっております。この賦源は  
国庫補助百四十五万円 起債二百万円 市費百十五万円と見て  
んでございます。

西の学校校庭整地費六万円でございますが西の学校は三十二年  
度におきまして全校舎を改築いたしましたのですが裏の山を削  
りまして敷地を拡張いたしましたために校地が非常に荒れて  
おります。そのため整地費として六万円を計上いたしました  
わけでございます。東の学校校舎修繕工事費として三十万  
円を見込みました。東の学校も大変悪い校舎でございますの  
で修繕さしようというものでございます。同じく東の学校  
給水施設工事費として十五万円を計上いたしました。このう  
ち五万円は地元の寄付を見込んでございます。富崎小学校に  
おきまして排水工事施設費として十万円 これは新校舎と  
古い校舎の間に排水溝がございますのでその分として計上

いたわけでございます。豊房の学校校舎修繕工事費として十  
万円豊房の学校もやはり大変痛んでおりますのでこの修繕を  
したいというものでございます。神戸の学校校舎修繕工事費として  
三十万円神戸の学校も同じく相当校舎が痛んでおりますので  
この修繕工事費として三十万円を見込みました。畑の学校  
石垣<sup>積</sup>工事費として五十万円これは畑の学校の裏側の土手が  
崩れている必配がございますのでこれを石で積もうというもので  
ございます。

四項の甲学校費におきまして七百八十六万二千円を計上いたしま  
した。四目の需用費におきまして四百八十二万四千二百円で昨年に比  
しまして八十二万四千六百円 約二割の増額となっております。  
消耗品におきまして七十四万二千五百円これは生徒三千七百人学  
級にいたしまして八一二学級分の消耗品関係の費用でございます。  
す。二十五節備品費はやはり説明書に記載してございますので

説明を略させていただきます。八十四ページ三十九節 扶助員  
で六万九千九百円を華西女保護生徒教科書購入扶助員として  
計上してございますが、これは三十二年度から中学校の生徒にも  
この補助金が交付されることになりましたので、大体本年も  
去年と同額程度計上したわけでございます。該当人員は  
七十三人と見込みました。

五月の営繕費におきまして二百四万三千円を計上いたしまし  
たが、工事請負費におきまして百五十一万円でございます。オ一中  
学校の屋根ふき替えその他工事として七十万円、これは三  
十二年度におきまして屋根の四分の一をふき替えましたので、また  
四分の三残っております。そのふき替え工事費でございます。  
同いくオ一中学校の防火貯水地貯水槽施設工事費として二十万  
円、これは昨日総務課長さんから御説明がありました学校の防火  
用として、まして三百石入の貯水槽の工事費でございます。オ二中

学校渡廊下増築工事費として十万円を計上いたりましたが  
 これは本校舎から特別教室 沙入川に面しました家事室へ渡る  
 渡廊下を増築するものでございまして大体十坪分の工事費  
 でございます。西岬中学校 給水施設工事費として十万円  
 房南中学校 天井その他工事費として十三万円 房南中学校  
 の天井は三十二年度におさまって教室の分は現在施行中でご  
 ざいます。また廊下と講堂が残っておりまうので、その費  
 用として十三万円を計上いたりました。豊房中学校校舎  
 修繕工事費として十万円 中甲中学校渡廊下増築工事  
 費として七万円 中甲中学校もやはり本校舎から新しい校舎への  
 渡廊下がございせんのでこれを増築したいというものでご  
 ざいます。同じく中甲の給水施設工事費として五万円を計  
 上いたりました。

五項の高等学校費におきまして一千百六十六万三千九百円を

計上いたりました。これは先ほど申しました一学級増による人件費の増と需用費の増によりますものでございますが百四十六万七百万円の増となっております。一枚めくりまして八十六ページ消耗品費で十二万円 これは全日制十五学級定時制八学級合計二十三学級分の消耗用品の購入費でございます。備品費にあつまして四十五万円を計上いたしましたが一学級増によります机腰掛六十人分二十四万円 商業科課程の器具費として十六万六千円 体育関係の器具費として五万円 合計三十一万円を計上いたりました。教材費として十万円これは編物機械とかミニとかいうものでございます。

六項の幼稚園費におきまして六百八十五万四千八百円を計上いたりました。これは先ほど説明いたりましたが昨年に比べまして職員が一名減になっておりますが形小学校の運営員等が入りました関係で昨年に比しまして六十四万二百万の増

二 第一 市 議会  
となつておるわけでございます。

需用費におきまゝして九十二万五千七百円でございますが大體船形  
い学校の今回の一学級の増の分を六万円程度見込みました。  
あとは大體昨年と大差ございません。八十九ページに参りま  
して公民館以下社会教育費関係におきまゝして三百七十万八  
千二百五十円という額になります。この額は婦人会館の三百  
万を除き三百七十万八千二百五十円という額になるんでございま  
すが、この額は大體市民一人に對して六千円という額にな  
ります。一日の報酬費におきまゝして四万三千二百円、昨年  
に比して一万七千二百円の増となつておりますが、これは昨日  
の議案において増額認められまして分の増でございます。あと  
需用費におきまゝしても昨年と大差ございません。行事  
その他におきまゝしても新しい行事を見込んでおります。  
六目の営繕費におきまゝして九万四千円、昨年に比して十五万七千円



の増額になっておりますがこれは二十四節工事請負員で十五万円を計上してございます。これは館野分館の修繕工事費でございますがこの館野分館の建物は中四中学校の危険校舎として取りこわすべき建物と公民館の建物へと使用替えしてあるのでございます。これを十五万円程度かけまして修繕して公民館に使用したいというものでございます。八項の青年学級費におきまして六十五万二百万を計上いたしました。

二目の職員給におきまして三十九万六千円で昨年に比して八万五千二百円の増となっておりますが昨年は常任講師三名でございますました。が西岬分の一名が増四になっておるわけでございます。その他旅費需用費等は昨年と大体同じでございます。

九項の図書館費におきましては昨年に比して六万三千円の増でございますがこれは職員の自然増の人件費でございます。

その他はやはり昨年と大差ございません。

管轄費におきまして三万九千円を計上いたしましてたがこれは図書館の現在の建物狹く本を入れる書架の置場もないといふことでございますのであそこを中村パシ屋の方に空地が少ございまして坪半ばかり張出しまして図書館の置場を拡張しようというものでございます。

十項の社会教育費におきまして三百六十三万二千三百円を計上いたしましてたが昨年に比しまして三百万の増額でございますがこの三百万は婦人会館の建設費でございます。需用費等におきましては大体昨年と大差ございませんので説明を略します。

管轄費におきまして三百万工事請負費三百万を計上いたしましたがこれは婦人会館新築工事費として坪四万円で七十五坪分を見込みました。この財源は寄付二百万円を予定してある

わけでございます。

体育費におきましてハエ二千九百円で昨年に比し八分四千六百円の減となっておりますが昨年は営繕費におきましてブルのスタンド工事を終了いたしまして関係でそれが大きな減少となっておりますわけでございます。今年の七月に関東高校の水泳大会が館山市に開催される予定でございますので三十三節の負担金補助および交付金にこの補助金として五万円を計上してございます。営繕費におきまして工事請負費で十三万円、ブルスタンド修理工事を計上してございますがスタンドの修繕工事は去年大体できましたのですがあと二段分残っております。三十五回ございまして二段分一間千八百円と見込みまして十三万円を計上したわけでございます。以上で教育費の説明を終ります。(休憩)と叫ぶ者あり)

議長(石井潔君)一ぱうく休憩いたします。

午後二時二分休憩

午後二時十六分開議

議長(石井潔君)休憩前に引続いて会議を開きます。

福祉事務所長(長谷川広治君)九十九ページでございます。

社会および労働施設費について御説明申し上げます。

昨年より五百六万ばかり増額になっておりますが、約六割が生活扶助基準の引上げによる増額でございます。それ以外の保護については付記に細かく掲げてございしますので、それによつて御承知いただければ幸いです。大体月平均千四百九十人、年間二万四千八百八人の保護予定でございます。百ページ以下の民生委員費につきましても、例年の通り経常的なものだけです。

三目の児童福祉費につきましても、例年実施しております五

月五日子供の日の行事の費用が中心でございます。そのうち  
四目の児童措置費につきまゝては予算説明で御了承いただき  
たいと思います。

百一ページの体育所費につきまゝては三百十八万六千円計上  
いたしましてが本年度純真保育園で百五十五人九重館野  
両保育園で百二十人三百七十五人を収容する予定の予算でござ  
います。

需用費等におきまゝてはほとんど子供が直接使います清純  
品等でございます。ただそのなかで百四ページに施設費として  
二十万計上いたしまして。これは館野保育園の敷地約三百八十  
坪を購入いたしたく計上いたしまして。

五の身体障害者援護費につきまゝては本年度三十五名に對して  
それぞれ二十万の範囲において保護あるいは補装具の交付  
をいたしたいと考えております。他の経費につきまゝては

一 経常的な事務的な経費でございます。

福祉事務所費につきまゝでは大休国の補助基準の範囲内に合わせまゝで経常的な事務的な経費でございますので御了承いたしたいと思います。

百八へーの七項福祉事務諸費として四十六万八千八百円を計上いたしました。昨年度より相当額増額してありますのは養老年金関係の費用それから今回新たに市の社会福祉協議会に対し補助金として十五万円を計上いたしました。あとは経常的な経費でございます。

八項の住宅費、九項の災害救助費、十項の戦傷病者等援護費等につきまゝでは大部分経常的なものでございますので付記により御了承いただきたいと思います。どうぞよろしくおねがいいたします。

○厚生課長(神作啓次郎君) 十二項の厚生援護費について御説明申上

けます。

本年度の予算といつて三十四千八百円 昨年に比較して一  
万九千八百円の増でございますが大體報償費、賃金  
消耗品費は昨年と全んど同様でございます。それから食  
糧費の九万一千五百円は毎年やっておりますの戦死者の  
慰霊祭行事でございますので説明は省略させていただきます。  
大きく変わったことは三十二節の負担金補助および交付金の館山市  
未亡人会の補助金二万円が昨年は五万円でございます。たんで  
いろいろな全国的に未亡人活動が活発になつて参りまいた  
ので館山市といつてまでもそれにならうて行事をやる  
関係上ぜひとも増額をしておきたいということので一万  
五千円増額いたつてよろしくおねがいいたします。  
つぎは保健衛生費の健民費でございますがこれも昨年と  
同様でございますので節は省略させていただきます。

オニ項の予防接種費といたしましては十才八千七百円でござ  
います。九節の賃金五万八千三百円、これは年間のジフテリア  
百日せき種痘を行うお医者さんの産上料でございまして、よろ  
しくおねがいいたします。

十一節の消耗品費でございしますが一万八千円、これは予防などを  
するための注射用の消耗器材費でございしますので細かいこ  
とは省略させていただきます。

二十六節の原材料費でございしますが、これも同じく腸バラとか  
百日せきとかワクチン、薬剤関係のこととでございしますので、細部は  
省略させていただきます。

オニ項の伝染病予防費でございしますが二万五千円計上して  
ございします。昨年より三万六千五百円ばかり減額してあります  
が、伝染病はますます衛生関係が強化され、<sup>患者</sup>患者が少なくな  
ってきて、さうな関係だと思っております。



燃料費でございますが、八月上げました。これはガスターとか、  
そういうものの燃料費でございます。

その四項の隔離病舎費でございますが、五十六万二千七百丁月計上  
してございますが、昨年に比較して三万三千九百丁月の増  
でございます。十二節の燃料費でございますが、三万七千八百五  
十丁月計上してございます。これはやはりガソリンとか、灯油と  
か、そういうものが隔離病舎に必要なために計上したわけでござ  
います。これは患者の診療の委託料でございます。患者の  
ないことを希望しておりますが、大体年間七人ぐらいの伝染  
病患者が出るではないかと予想して計上したものでござ  
います。よろしくおねがいします。十二節の修繕料の四月分ござ  
います。三輪車の修繕代でございます。非常に走巧な自動  
車でございますので、おねがいいたします。

その五項の結核予防費でございますが、十二節の委託料で

ございますが、十万円計上いたりました。これは間接、直接撮影などを行う学童の一万五千一校の一万五千をおねがいする費用でございます。二十六節の原材料費といたしまして二十万円計上いたりました。先ほど申し上げましたツベルクリにならぬに、CとGとかいう薬品を購入するために計上したわけでございます。六項のと場費でございますが、これは本年度三十万九千円計上いたりました。昨年より二十万六千五百円の増になっております。その主なものはと場の放血所を設置したいということ、で工事請負費として十万円計上いたりました。これはタイル張りで業者の便宜をとり衛生の面も図ろうということ、で計上したわけでございます。(神作課長なるべくまっすぐお話をしておねがいします。声の下の方へ行ってよく聞えないと呼ぶ者あり。つぎは七項の火葬場費でございますが、付記がありますので説明を省略させていただきます。ただ二十六節の燃料費でござ

いますが一十二万四千円計上いたしまして。これは火葬場と  
しましては一番の資源でございますので御了承ねがいたい  
と思います。

八項の狂犬病予防費に参りますますがこれにつきましても同じ  
く十二節の燃料費一萬三千七百円は野火狩りをやらなければ  
いけないというためにいろいろガソリとかオイルとかの燃料  
費が必要のために計上いたしたわけでございます。

九項の環境衛生費におきましては大体九節の賃金でござ  
いますが一これは衛生費の人夫でございます。常時三人おり  
まして四月頃から夏にかけて臨時用人を五人ほど雇上げまして  
そしてこの環境衛生に万全を期したいというために計上したわ  
けでございます。あとは二十六節へいきまして原材料費と  
して百十九万七千円これは四種混合とかB C Gとか購入する  
ためにおねがいしたわけでございます。

十項の消毒所費でございますがこれも甲上げることと省きます。

十一項の清掃費でございますがこれは九の賃金の七十三万四千八百円これもやはり清掃などする場合にはどうしても働く人がいないと困るのでこの人たちを増員してもらいたいと思っております。十二節の燃料費五万円これはガソリン代として計上いたりました。

二十五節の備品費の三十五万 これは今回自動車と一名購入いたしまして市内の清掃に万全を期したいということでございますので中型四輪車購入代として三十五万計上いたさせていただきます。以上単でございますがよろしくおねがいしたいと思います。

農産統計課長(吉田耕一君)百三十三ページをお開きねがいます。

十款の産業経済費のうち農林関係の分につきまして御説

明をいたします。

本年度四百七十一万七千九百円を計上したわけでございます。四十  
四万余りの増となつてゐるわけでございます。人件費につき  
まゝては一応説明が終つておりますので省かせていただきます。ま  
ゝて需用費に移ります。需用費につきまゝては殊にとり  
たてて本年度計上したいという目はございませぬので一応必要  
経費としてこの印刷で御了承をねがいたいと思ひます。

つゞに農林費でございしますが、生産対策費、こゝも大なる変化  
はございませぬ。<sup>上</sup>生産対策費の一助といった。まゝて貯溜槽の  
設置を奨励したい。こういうふうな考えから本年度貯溜槽  
五個程度と奨励設置したいと考へて十五万円を計上した  
わけでございます。二目の病虫害防除費でございしますが、これは

やはり大したものもございませぬ。一かゝながら、原材料費の五十  
万円でございますが、防除用の薬剤を購入した。まゝて防除に

努めるといふような観念から購入した額の四分の一を市費と  
もちまゝて支払するといふ關係で五十万円を計上したわけで  
ございます。二月の園芸振興費でございますが果樹の増植  
を奨励したいといふような考え方からここに十五万円を計上  
いたしまして山林の原野開墾をいたしまして莊園にする  
ように奨励する意味におきまして苗木をカキ、ビワ、モモ、そう  
いったようなものに計画しておるわけでございます。

四目の畜産奨励員でございますが畜産奨励費はやはり  
現年度と考え方は違つておりません。ただ牛のサイロ建設を  
いたしまして牛の育成を強化していただきたいという考えか  
らここに備品費で三万円を計上いたしましてワイロの枠  
を市がつくりましてそれを建設される方に貸してつくって  
いただくたいといふふうな考え方でとくに三万円を計上したも  
のでございます。 農業振興費でございますがこれはとくに

とり立てて申上げることもないと思ひますので省かせていたでございます。つぎの調査費も同じでございます。

三項の土地改良費でございますがこの土地改良費に農林関係の本年度は重実をおさまして四百四十万六千四百円を計上したわけでございますが昨年と比較いたしまして目十一万九千余月の増をみておりますがこれは説明書を御覧になつていただければ大体わかると思ひますが説明書のなかに豊房土地改良已施行と安房田共同施行が見え共同施行これを団体事業として本年度施行いたしたと考えるのでございます。つぎの広瀬共同施行カネダ共同施行分につきましては単事業として承認を得られるというふうになっておりますのでその線で事業を施行していただきたいと考えるのでございます。館野の林道耕地整理組合の共同施行も見え共同施行分につきましては農

道満池の改修その他につきまゝては市の事業といたしまして本年度これが改修等に努力いたしたいと考えまして以上のような予算を計上したわけでございます。

大体以上で説明を終らせていただきます。

百三十九ページの統計調査費をおねがいしたいと思っておりますが統計調査費におきましては全部が委任事務でございましてからとくにここで御説明を加えることもないと思ひますので本予算書によりまして御了承をおねがいしたいと考えらるのでございます。以上でございます。

○商工水産課長(羽山房雄君)四項の商工費について御説明いたします。

本年度八十九万六千七百二十円をおねがいいたします。

昨年度より二十八万五千二百二十円の増でございますが主として新しいものといった一まゝでは百三十二ページの二十三節委



託料十三万円の商工祭行事委託費として丁卯月を計上いた  
た一ました。これは才一回の計画といた一まして市ならびに  
商工会議所、観光協会三者の共催により商工祭を計画申  
でございます。取あえず丁卯月の委託料を計上いた一たも  
のでございます。三十三節の負担金補助および交付金のう  
ち商工会議所補助金四十万円、中い企業運営委員会負  
担金これは四十万円、前年同様でございます。下の商工会議所  
物産展示所建設補助金三十万円、これが新たににおゆいする分  
でございます。商工会議所の賜、ただいま自転車置場となそ  
ありますところ、<sup>二階建</sup>の物産展示所を建設申でございま  
す。これに対する補助金を計上いた一たわけでございます。なお  
十三節の食糧費二十万円の内、記を申一ますとこれは物資受  
給関係の打合せに六十万円、中い企業運営協議会と申一ますが  
それに四十万円、金融の委員会、果および保証協会等から参

ります。人たちの接待等二万月を盛ったものでございます。

つぎに五項の水産費におきまして百六十三百月をおねがいいたします。昨年より三%の増になっております。このうち百二十ニペーゴの十三節食料費、これは海運局関係の船舶職員講習に關する係官接待とかあるいは浅海増殖等の現地調査等によります。係官の接待費を充てたものでございます。ほかに組合長會議として若干見とみまゝた。それが三万五千月でございます。なお二十三節の委託料三万月、これは漁港と漁場の調査のために大休学識経験、主に果の係官よりの方を依頼いたしまして調査いたします。なおほかに単協それぞれ、単位の協同組合自体に調査をおねがいする分といたしまして若干の委託料を加えたものでございます。三十三節の負担金におきまして七十二万四千百月おねがいたしまして、この内訳といたしまして大休昨年と同様でございますが、新たにここに加えまして、ものにつぎまゝ

ては二ペーどあげまして百三十四ペーどの上から三段目布良水  
難救護所補助金一万円これをおねがいいたしたわけでございます  
す。布良水難救助につきましては御承知の通り三十三年の三月  
二十六日に設置されましたもので所長以下五十五名がこれに当って  
おります。この設置に当りまして果が約十万円の備品の補助  
をいたしております。大体一年に果がこういう施設をつくる  
のが二ヶ所程度だとうであります。本年度は新たにできた  
箇所は当市にはございません。大体二年一回程度の演習の費用  
これと一万円ほど補助したいこう考えたものでございます。  
そのほかの需用費につきましては大体前年同様でございます。  
六項観光費につきまして御説明いたします。

前年に比しまして十数％の減になっております。大体減額  
の主なるものは印刷製本で十五万借損料で約七万円委託  
料で六万九千員増で六万円が大体前年より減っているもの

でございます。

なお本年度の新しい施設といつては工事請負費によりまして御覧いたなうと思ひます。百三十六ページ、熊山海岸の鉄製ブランコ、八千円、北条海岸のブランコ、四千五百円、那古公衆便所新設費、四万円、この那古公衆便所設置というのは海岸でなく那古寺の境内にたゞいまバスの停留所がございます。そこでえ、那古観音境内にある古い便所を下て持つてきて設置したい、こう考へて計上したものでございます。架設休憩所、網球台等につきましては前年同様踏襲いたつた。簡単であります。以上で説明を終ります。

○総務課長(兎戸貴君) 百三十七ページ、このうち二目の積立金として二千三百四十円十月を計上してございます。このうち一千円が市庁舎の建設準備積立金でございます。今年計するならば一千円計上し、積立をいたつた、とするものでございます。

百四十九ページの十四款公債費でございます。現在当市にお  
きまして未<sup>償</sup>還元金は七千二百八十二万九千余でございますが  
昭和三十一年度における元金が四百八十三万円でございます。  
付記にいろいろございますがこれを集計いたしますと大蔵  
省資金運用部へ還す分が三百三十二万二千七百七十三円郵政省へ  
還す分が二十七万三千九百七十一円それから公募債分として償還  
する分が百三十三万八千六百六十六円となります。個々の内容に  
つきましては付記によつて御承知をねがひたいと思ひます。  
つゞは百五十一ページの利子でございます。本年度の償還利子  
は四百五十八万五千七百八十四円になります。この内訳は大蔵省分  
が三百七十四万八千八百二十二円郵政省分が五十四万九千五百六十円公募債  
分が二十九万五千九百十八円ということになります。

○送管委書記長(渡辺茂君)百四十一ページをお開きねがいます。  
才十三款の送管費について御説明いたします。

選挙費の予算総額は百五十万二千六百三十円でございます。前年度の予算額九十二万五千七百八十円に對して五十四万九千八百四十円の増加となっております。この増加の理由は予算書と御覽の通り前年度にない海邑漁業調整委員の選挙千葉県知事選挙、館山市長選挙に要する経費を計上したのが増加の理由の主なるものでございます。

オ一項の選挙管理委員会におきましては大体前年度と同様の費用を計上いたしました。

オ二項の選挙啓発費におきまして前年と變つております。実はオ二目需用費、オ二二節委託料に三万円を計上したことがございます。これは市内に結成されている公明選挙推進協議会に選挙法オ六条に常時選挙の啓発をしなければならぬという規定がございますのでこの事務を委託してありますのでその委託費でございます。オ三項以下の選挙

執行費につきまゝでは過去に執行した送答費の実績と  
国果支出金の交付基準額計算してそれより予算措置  
をいたした方がございます。以上で終了します。

○税務オニ課長(伊藤幸太郎) つづきまして百五十三ページの諸支出金  
のうちオニ項徴税費を甲上げます。

●本年度の予算額が三百四十七万二千円余昨年よりも一  
千四百三十万円の増額でございますがその大きなものといた  
一としては百五十五ページにございます奨励啓発費の報償  
金の関係でございます。これは納税組合の増加に基づきますと  
こちらの組合奨励金の増額によるものでございます。

以下徴税費につきまゝでは大体経常的必要経費でございます。  
すので御了承をいたしたいと思います。以上でございます。  
○総務課長(兎戸貴君) オ十五項の諸支出金のうち振答費につい  
て御説明を甲上げます。

とくに三十三年度におきまして変わったものとして計上いたしましてたのは百五十六ページにございます。二五節の委託料でございます。六万月計上いたしましてたが、これは安房地已勤労者の文化厚生福利施設委託料として計上いたしたものでございます。他は大体例年と内容と同様とするものでございます。ますので説明を省略いたします。

百五十七ページの予備費は本年度三百万計上いたしましてた。以上合計二億五千九百三十一万九千七百五十円という予算算形態になります。

訂正いたします。ただいま委託金として安房地已と申しましてたがこれは間違いでございまして館山地已勤労者こういうふうに訂正いたします。つぎは支入について申し上げます。

七ページに返ってお用きをねがいます。本年度の市税総額



は一億三千百三十九万八千二百三十四円でございまして前年度よりも増加しております市民税以下市税の予算額の計算の基礎となりまして計数的な関係につきましては説明書に明細に記載してございますので説明を省略するのとにいたします。

十一ページ二款の地方交付税でございますがこれはまだ算定の基礎がつかめませんので大体前年度の算定基準に従いまして四千八百四十八万と計上いたしましたものでございます。基準財政需用額を一億三千二十五万基準財政収入額を八千七百七十七万としてその差額を計上したものでございます。

つぎは十三ページ三款の自転車競技収入でございますがこれに五百万円を計上いたしました。これは予想に基くものでございますが本日松戸で行いました自転車の配当金の通知が二百万ございまして三十二年度は現在まで七百四十万収入になる

ということになりますが一応当初予算におさまっては  
五百万円を計上いたした次でございます。

十七ページをお聞きねがいます。五款の使用料および手数料  
でございましてこの内容の説明につきましてもは付記にか  
かり詳しくございましてので省略をいたします。

つぎは二十一ページ六款の国庫支出金でございしますがこの  
国庫支出金につきましても付記や予算説明書に詳細  
に説明がございしますので省略をいたします。ただこのう  
ち二十一ページにございましてオ一節の消防施設費補助金で  
ございましてこれは二十一万五千円計上いたしました。  
これはオ一分団の三輪自動車を新たに買いたいという  
補助金の見込みを計上したものでございまして。これも  
大体的見込みでございまして決定の場合には若干の相違  
があるかと存するわけでございます。

二十五ページ果支出金であります。これにつきまゝて  
も生活保護費等付記に詳細に説明がございますので  
省略をいたします。

つぎは二十七ページオハ款の寄付金でございます。このうち  
オニ目の消防費寄付金として二百十五万円を計上してござ  
います。従来消防施設費につきまゝては半額地元で負  
担いたゞりまゝて半額を市で支出するという方法を取った  
ものでございますが三十三年度におきまゝては一応消防  
施設は市の公設機関であるという建前をとります。まゝて  
半額を地元から寄付として受入れ金額市がこれを買つて  
地元に使用させるという方法を取ったために寄付金として  
二百十五万円を受入れようとするものでございます。内容は  
は自動車ポンプの購入費貯水池の設置費その他の設置  
施設に要するものでございます。

第四目の教育費寄付金といつた――まゝで二百五万を計上いた  
――ました。この内訳は婦人会館の建設費の寄付金が二百万  
でございます。果から予定されておりますものは大体三百万  
円くらいで建てたいというのでこの三分の二を寄付する。  
それでこの二百万円の寄付につきまゝでは昨日文書をも  
もって寄付するという甲立てがございます。なお東小  
学校の給水施設費として十五万円の三分の一五万円が見込  
まれますので計上いたした次第でございます。

つぎは二十九ページの繰越金でございます。繰越金につき  
まゝでは三十一年度で二千百五万余生じました。が三十二年度  
でも現在の計画通り参りますならば一千万円前後の繰越  
――が得られるのではないかと予定しておるのでござい  
ますが、当初予算におきまゝでは一億三百四十万余に止めた次第でござ  
います。

つぎは三十一ページの雑収入でございますが、こゝにつきまゝ  
では、その説明を要する箇所も少ないと存じますので、省  
略させていただきます。

三十三ページの本年度市債といたしまして、船形小学校の  
改築事業債として二百万円、船形築港の事業負担金債  
として二百万円を予定いたしました。この起債につきまゝ  
では、確實に入手するように努力いたしたいと存じます。  
以上英文支出同額でございます。

○議長(石井翠君)——ばうく休憩いたします。

午後三時四分休憩

午後三時二十六分開議

○議長(石井翠君)——休憩前に引続いて会議を開きます。

議長(石井翠君)議案オ二工号から各款説明をお願いします。

厚生課長(神作啓次郎君)百六十三ページ公益質屋の文との方から御説明を申し上げます。

文との合計額を最初に申し上げたいと思います。九百八千三百円でございます。

オ一款オ一項の事務費でございますが九千四百六十円でございます。目の方は省いて。

ニ款の一項事業費は七百万二百円であります。

三款の公債費の一項の元利償還金でございますが、これは公益質屋の国から借りた償還金を元金が五十九万九千八百九十円計上いたしました。その利子が十七万六千五百円でございます。

オ四款のオ一項の予備費に四十万百円計上いたしましたわけでございます。合計九百八千三百円、こついうことになります。

文はこれで説明を終らせていただきます。

○二番(吉田勇治郎君)あまり簡単すぎますとわかりませんか  
ういといふあまり簡単ということとは止めてもらいたい。

○厚生課長(神作啓次郎君)文へ参りたいと思いますが同じく文  
入は合計が九百八万三百万でございします。その内訳は本年  
度事業収入が八百八万二百万でございします。それで一目の  
貸付金の収入が七百万でございします。貸付金として百万月  
の金を四ヶ月を切替えと一ヶ月三回切替えられますので  
これを三百万といふたわけでございます。在庫の繰越が  
二百万月二回で四百万になるわけです。都合貸付金七百万  
月を動かしていく予定でございます。

つぎに参りましてその利子は大体百万月でございします。  
つねに三百万月が回転されるわけでありましてこれを  
三令と一十年かけると三割六分でございますので八百八万という

利子が入るわけでございます。

オニ款の繰越金オ一目の前年度の繰越金百万円でありましたがこれは省略させていただきます。

雑収入として存目程度百円上げたような次オでございます。合計九百八万三百円という結果でございますのでよろしくどうかおねがいとうございます。

○保険課長(唐沢貞太郎君)百七十三ページをお開きねがいます。国民健康保険支入支出予算のうちこの事業勘定の支出から御説明申し上げます。

支出のうち役所費のうち七十七万八千九百九十円が前年度より増加したものでございます。うち職員給および諸手当につきまゝては秘書課長の説明がありまゝたので略させていただきます。

オ三月の旅費につきまゝては徴収の市内出張および一



板の普通旅費でございます。

四目の需用費のうち九節賃金につきまゝては六百  
分の臨時用人料が計上されてございます。一枚めくり  
まゝて百七十四ページを御覧収がいます。

需用費の各節につきまゝては備品費を除きまゝて前  
年とそんなに違っていないのでございますが備品費につ  
きまゝては一応事務能率ということを主眼におきまゝ  
てある程度の機械の購入をそこに掲げてあるんでござい  
ます。御承知の通り賦課徴収を両方やっておりますので賦  
課事務を早くまゝて徴収に一日も早く出たいというた  
めのことでございます。そのひとつは金書へと金額を打ッ  
タイプライターでございますがこゝは郵政省または電通にお  
いても使っておるようでございます。そのひとつは給は費  
の算定をより机上早くするためでございます。その他三

十九万二千六百円をここに計上してございます。

交際費につきまゝては前年と同額でございます。二項会議費につきまゝてはやはり前年と同様でございますので省略させていただきます。

三項の諸費につきまゝては新たに研修費というものをここに設けたのでございます。これは職員が国民健康保険の事務のための研修が年二回程度でございますのでここに計上させていただきます。負担金につきまゝては省略させていただきます。以上で役所費を打ち切りたいと思ひます。

オニ款の保健給付費につきまゝては配りまゝた説明書があるのをごぞいます。昭和三十三年国民健康保険料の算定の基礎<sup>基礎</sup>についてという題の用紙が一枚のもので入っておりますがそれによりまして説明したいと思ひます。

保険給付費につきまゝては前年よりも三百三十八万四千  
余の増となっております。それは大体自然増でございます。  
て法改正による実数値上がりにつきまゝてはまだ見込んで  
ございません。うち療養給付費の見込み額につきまゝて  
御説明甲上げますが月平均の件数を見込みまして各年額  
を見込み総件数を年間平均被保険者数で割りますと  
利用率が出て参ります。これが三六・九七%を見込んだり  
けでございます。それから年間の総実数を年間の総件数  
で割りますとこれが一件当りの実数は出てくるのでござい  
ます。これが五六の九五になるわけでございます。これに一  
実単価が十二月五〇銭でございますのでこれに一件当りの  
実数五六の九五と利用率をかけますと一人の年間給付  
所要見込額になるわけでございます。二千五百五十二  
月二十四銭というのが一人当りの年間給付見込みで  
ございます。年間被保険者数

の見込み額は三万七千三百七十三人でございすのでこれに一人当りの費用額一千五百五十二円二十四銭を乗じまして一部負担の割合の五〇%をかけましてもの五千百五十六円が年間の結付額でございす。これから結核予防法によりますところの負担分を引きましてものが二千八百三十万九千十二円でございす。これが療養費給付費所要見込額でございす。つぎは療養費の見込み額ですが月平均三十九件を見込まして年間四百六十八件これに五百円をかけまして二千三万四千円を見込んだわけでございす。

つぎは葬祭費でございす。月平均三十八件に年間見込ましてそれに五百円をかけまして二千二万八千円が葬祭費の見込み額です。療養給付費見込み額助産費見込額葬祭費見込額全部たしたもののが二千九百八十一万二千二百二十円になるでございす。これは基本保険料

の賦課総額になるのでございますがこれが一人当りの  
給付費用額が七百九十六円六十銭になるのでございます。  
運営委員会の席上でたまたま非常に高いというわけ  
で一般会計繰入金として三百万程度を見込みましてこの  
総給付から三百万を引きまして二千六百八十一万二千二百二十円を基  
本保険料の賦課総額といたわけでございます。これを一人当り  
で見ますと七百七十四円四十一銭それから前年度の予算額に  
対しまして増加歩合は一割四分九厘の増となっております。  
それではもとの百七十五ページに戻ります。

この保険給付費にただいま申し上げました額のほかに過年  
度分として療養給付費のうち三百万それからこの療養  
給付費の総額から直診へと繰出すものがござります。これ  
が百六十八万五千円でございます。これを他会計繰入金と  
して節へ上げましたんでございます。これが過年度分が三十

万みてございます。このほかに療養費、助産費、葬祭費合計一萬一、千九百一十二、千二百二十円となるのでございます。

つぎは保健施設費に移ります。保健施設費につきまゝては前年と大した差はないのでございますがこれは保健婦さんが活動する一番主体となる科目でございます。そのうち第四目の施設諸費にあきまゝて二十六節の原材料費が見込んであるのですがこれは回生検査等に使用する薬剤、それから国民健康保険の被保険者が厚生課主催によるところの予防接種等を行った場合には私の方からその薬剤を厚生課へとっておりまして被保険者が払います十月とか二十月ということをお免除いたします。

つぎは第四款の趣旨普及費について申し上げます。ある程度保険料は増額することが見込まれますのでそれに対応す

る報償費をここに含んだのでございます。合計一萬七  
百十萬三千円となつたのでございます。その他報償費のう  
ちにその他の報償費という欄が四萬円あるのでございま  
すがこれは健康家庭の表彰記念等でございます。

趣旨普及費の説明を終りまして百七十八ページの公債費に  
移ります。公債費につきまゝては前年度と同様でござ  
います。旧西岬村が大蔵省より借入せられた国民健康保  
険再建整備費の元利金合計一萬七千三百六十九円が  
ここに計上してございます。その他一時借入金利息とま  
ゝて六万円を見込んであるわけでございます。

諸支出金のうち負担金があるのでございますが国民健康  
保険団体連合会負担金と一萬七千三百五十九円が計上  
てございます。この内訳を申しますと被保険者割負担金  
というのがございます。これが一人六円。それに三万七千五百人

とかけまゐつたものが三十二万五千円、それから平等割負担金が三千円、その他職員の講習会負担金と一まゐりて合計三十二万五千円がここに計上してございます。その他諸支出金のうち説明申上げますのは五項の診療報酬審査費と、いうのがございまゐりてこれは国民健康保険の請求書用紙一枚につきまゐりて一月六十銭の審査手数料をとらゐるのでございます。これが八万五千六百二十件分と一まゐりて十三万六千九百九十二円を計上してございます。予備費と一まゐりて百三万四千円を計上してございます。又も合計三千七百四十三万四千八百七円、前年比一まゐりて四百三十二万九千八百十三円の増となっております。

つぎはオ入に移らせていただきます。

オ入のうち現年度分の保険料につきまゐりては先ほど説明一まゐりた基本保険料賦課総額の二千六百八十二万二千二百二十円



もここに計上いたしたのでございます。滞納繰越金と  
まゝ二百二十七万四千四百円を計上いたしました。これは各年度  
別に収入見合を見込みまして計上したものでございます。

合計国民健康保険料としましては三百四十九万六千五百八十  
二月の増となっております。

二項の財産収入および三款の使用料および手数料はこれに  
ておわかりのことと思ひますので説明を省かせていただ  
きます。

つぎは四款の国庫支出金でございますがこれも法令の改  
正がまだできてございせんので法令改正前のものを基本  
としましてここに書き出したのでございます。

療養給付費補助金につきましてはカ方式は一応省略いた  
しましてカニカ式カニカ式の合計額の七〇%をここに計上して  
ございます。事務費補助金につきましては六十五万九千二百銭

をここに計上してございます。保険婦補助金につきまゝは十萬八千六百五十円の三分の一三萬六千二百七十七円をここに計上してございます。あとは五款果支出金以降につきまゝではこれにて御覧ねがいたいと思います。又八合計三千七百四十三萬四千八十七円 前年度に比し一萬四千四百三十二萬九百八十円の増でございます。

。診療所事務長（池田亮山君）国民健康保険直診勘定について御説明申し上げます。

百八十五ページから申し上げます。

才一款の施設費四百七十五萬三千六百六十円でございます。前年度予算額に比較し一萬四千四百四十円の増となっておりまゝ。この増の主なるものを申し上げますと百八十七ページの才三項医療費の二十五万節備品費九十五萬円計上してございますが三百シリのレントゲン二台を購

入いた—ま—て診療の万全を期—たいと—う思—てお  
るものでございます。

つぎの二十六節 原材料費 いわゆる藥品費でございます  
すがこれが四十万七千二百円の増となっております。これは  
事業の進展に伴い—た材料の増加でございます。  
以上申し上げ—たものが増加の主なるものでございます。  
その他各節の金額につき—ては説明を省略させて  
いただきます。

オニ款の諸支—金でございます。二万二千七百円でござい  
ます。これは直診の負担金でございます。直診協議会 医師会  
その他の負担金で前年同様でございます。

オニ款オニ項の繰—金は存目程度にとめております。  
オニ款の予備費は二十万円でございます。前年度よりも  
五万円増となっております。以上申し上げ—た支—出合計

が四百九十二万七千六百六十円でございます。

百八十一ページを入を御説明申し上げます。

オ一款の診療収入三百十七万六千六百円でございます、五十四万二千三百月の増となっております。

オ一項オ一目オ一節の国民健康保険診療報酬これはいわゆる国民健康保険の被保険者の診療に対する国民健康保険から支払われるものでございます。いわゆる窓口で半分とりますので診療費の国民健康保険の被保険者の診療報酬の半額に相当する額でございます。先ほど課長から御説明申し上げました保険課から他会計繰上り金額と相当するわけでございます。

オ二項のその他の診療報酬でございますがこれはオ一目のオ一節他市町村国民健康保険の被保険者の診療報酬でございます。一万二千六百円これは窓口で被保険者

いわゆる町村から支払われるものとの合計額でございます。いわゆる診療全額でございます。前年度よりも相当数減額してございますが、館山市以外の町村に例えば自営にも診療所が最近生まれて他所村からの利用者が若干減少してある現情でございますので減額したわけでございます。

オ二目の健康保険診療報酬でございます。これは社会保険の被保険者ならびに被扶養者の診療報酬でございます。百二十二万四千百円計上いたしました。オ三目のその他の診療報酬でございますがこれは結核予防法によります診療と医療扶助法によります診療の報酬でございます。十三万七千八百円を計上いたしました。

オ四目の一般診療報酬はいわゆる国民健康の被保険者でもなく社会保険の適用されない部分の一般診療分でございます。

ございます。十二万一千百円でございます。

オニ款の一部負担金は百六十八万五千円これは金館山市の国民健康保険の被保険者の診療報酬の窓口で支払われる金額でございます。いわゆるオニ款オニ項一目の国民健康保険診療報酬のうちど半額ずつに当る金額でございます。

オニ款の使用料、手数料オニ項の手数料オニ節の文書料は診断所料でございます。オニ節の検査料は妊婦検診

等の検査手数料でございます。文書料が四千円、検査料

が二千円計上いたりました。つぎはもう消いたりました項で

使用料はただいま御説明申し上げました手数料のうち前年度までは文書料と検査料とか別々の項になっていたものをも整理した関係でございます。

オニ款の寄付金オニ款の繰入金いすれも存目でございます。

オニ款の繰越金これと同じく存目程度に計上したわけでござ

でございます。

オセ款の雑収入六万五千百六十円は不要品売却代と未納診療報酬の収入でございます。

以上支への合計四百九十二万七千六百円でございます。以上簡単でございますが説明を終わります。

○保険課長(唐沢貞太郎君)以上合計一萬一千七百三十三万三千九百九十九円前年に比し一萬五千三百九十三円増となっております。

○議長(石井潔君)以上をもちて全予算の説明が終了しました。この際お諮り申し上げます。

会議日程によりますと明日は本日に引継いで予算の各款説明となっておりますが本日の会議で全予算案の説明が終了したので明日は議案調査のため休会と

いたすことに議會運営協議会の意見でございしますが、これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井潔君)御異議なしと呼めます。

よって明十二日の會議日程は休会と決定されました。従って明十二日より十六日まで議案調査のため休会となりました。次回は三月十七日午前十時となっております。その議事は監査報酬および通告による一般質問ならびに予算の質疑応答を行います。

○議長(石井潔君)本日はこれをもちて散会といたします。  
長時間ありがとうございました。

午後四時一分散会



